



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

歴史的問答

校長 永浜 裕之

1932年、アインシュタインに対して国際連盟は、「今の文明において最も重要と思われる事項（テーマ）を決定し、一番意見を聞きたいと思う相手に問いかける、いわゆる往復書簡を行ってほしい」と依頼しました。アインシュタインが選んだ相手は心理学者のフロイトで、テーマは、その時代を反映した「戦争」でした。

アインシュタインは、「人間を戦争から解放することはできるか」と問い、フロイトは、「『愛と攻撃・破壊』という、二つの欲動を人間は持っており、いずれも人間に不可欠であることから、攻撃性、破壊志向を取り除くことはできない」と答えました。

戦争は防げないという回答でしたが、フロイトは気になる視点も示しています。

「戦争への拒否感は、単に知性や感情レベルのものではなく、『体と心の奥底』から湧き上がる人間の文化的存在そのものから発せられるものであり、文化の発展が知性を刺激して、知性が暴力（攻撃）や熱狂（破壊）の欲動をコントロールするであろう」

つまり、「文化」の力によって、戦争を防ぐことができるとも言っています。

2月24日にはじまったウクライナ侵略（報道の一部は、侵攻→侵略に変わっています）では、「ロシア正教」という、内向きの民族宗教が政治権力と一体化し、戦争美化、暴力正当化の根拠になっています。

先フロイトの回答から考えると、人間の意識の高まりが生み出した究極の文化の結晶が宗教なのではと考えることもでき、ウクライナ侵略をめぐる問題の困難さが伺えます。

カミュが『ペスト』で記した「馬鹿げたことは何度でも繰り返し起こる。人間が自分のことばかり考えることをやめれば、気付くことだ」の一節を思い出します。ここでいう人間は、国家や為政者に置き換えることもできそうです。

2016年。あるBS放送の番組では、安倍首相とプーチン大統領の北方領土交渉をめぐる突っ込んだやり取りを紹介していました。

交渉進展を求める安倍首相に、プーチン大統領は次のように話しました。「日本はあの島々のことで、ロシアの脅威になったことがあるのか？」。真意をつかみづらい発言に対し、安倍首相は次のような意味だと考えたそうです。「北方領土を取り返すため、日本は軍事力を行使するほど本気になったことがあるのか。ロシアはそうやってクリミアを取り返した。甘いことを言うな」。安倍首相は、「まるで戦国武将のようだ」と感じたそうです。

「力による一方的な現状変更」は国際秩序に反しますが、ウクライナ侵略はプーチン大統領のこうした姿勢が具体化したものなのかもしれません。プーチン大統領は、ロシア人とウクライナ人の民族や宗教などの「歴史的一体性」を挙げて侵略を正当化していますが、「歴史」を「領土」保有の根拠とする考えかたに疑問を呈する国は多くあります。

2022年2月21日。侵略直前の国連安全保障理事会の緊急会合で、ケニアのマーチン・キマニ国連大使は以下のように訴えました。

「大半のアフリカの国々の国境線は、植民地の宗主国が引いたものです。その国境線は、我々の民族や人種、宗教をまたぎ、分断を生みましたが、受け入れなければ、血みどろの戦争を続けていたことでしょう。ゆえに、我々は戦争ではなく、国連憲章などのルールを選んだのです。国境線に満足しているわけではありません。平和を築くために、偉大な何かを求めたのです」。

この演説は、プーチン大統領の野望が引き起こすリスクの核心を捉えていると、世界中で反響を呼びました。ウクライナ侵略は、国際ルールより覇権主義を重視しているように見えます。私たちは、こうした潮流の拡大に抗っていかねばなりません。なぜなら、覇権主義を許せば平和とは異なる世界が生まれることは必定だからです。

令和4年8月22日（月）と23日（火）、新宿山吹高校を会場として、全国専門学科情報科学研究協議会（東京大会）が開催されました。全国専門学科研究協議会は、専門学科「情報科」を設置している全国の高等学校が集まり、日頃の研究成果を発表する全国大会です。毎年、夏季休業中に開催されており、その年ごとに開催する都府県が異なります。今年度は、東京都が開催校となり、東京都で唯一の情報科が設置されている新宿山吹高校が開催校になりました。これは、平成15年に第1回全国専門学科情報科学研究協議会が新宿山吹高校で開催されて以来、17年ぶりのこととなります。

今年度の専門学科情報科全国大会の参加学校数は、全国の情報科が設置されている学校が20校ある中の15校でした。参加人数は、1日目の教員の人数が52名、2日目が53名です。また、生徒は、1日目が33名、2日目が20名でした。1日目は、新宿山吹高校の「人間と社会」を履修している生徒が、ボランティアで大会運営の手伝いをしてくれました。

専門学科情報科全国大会では、生徒発表と教員発表を行います。また、情報社会や技術に関連する企業の方や文部科学省教科調査官の講演があります。

1日目の22日（月）は、生徒発表と企業講演を行いました。生徒発表は、6校の学校が研究発表を行い、新宿山吹高校からは、情報科4部の青木勇樹くんが『プレゼン原稿表示アプリ「Presc」—Flutterを用いたAndroid・iOSアプリの開発—』というタイトルで発表をしました。

この研究は、青木くん自身が「プレゼンテーション中に、原稿を読んでいる箇所を見失ってしまった」という経験により、「スマートフォンやタブレット等に取り込んだ原稿上に、発表者の音声を認識し、話している原稿の位置をリアルタイムで表示する」ものです。このアプリは、中高校生が出場する「アプリ甲子園」で、「全国総合順位3位」と「技術賞」を獲得しました。また、このアプリはストアに公開されており、発表で悩みを抱えている人たちの問題を解決しています。



生徒発表の様子

企業講演では、コニカミノルタ社の原田英典氏と氏家広之氏に、『ソフトウェア開発から見る日本のDXと求められる人材』というテーマで講演をして頂きました。今後は、AIエンジニアの獲得と育成を強化していくことが必要であるということや、情報工学に興味・関心の高い高校生は、「世界の最先端を早めに知る」という目標を持つべきであるというお話がありました。

2日目の23日（火）は、教員発表と文部科学省調査官の方の講評・講演を行いました。

教員発表では、全国の高等学校から7名の教員発表があり、本校からは2名の教員が発表しました。各学校それぞれの取組や新しい試みについて共有することができました。教員発表と同時間帯に、来校した学校の生徒同士が交流会を行いました。

午前中は、調布にある「NTTe-city Labo」にバスで移動し、最新の情報技術や施設を見学しました。午後は、新宿山吹高校に戻り、新宿山吹高校の生徒が、情報科の授業で作成した作品を生徒自身が紹介しながら、生徒同士で意見を交換するなどの交流を行いました。

結びに、文部科学省教科調査官の田崎丈晴氏から講評と講演を頂きました。講評では、本校の青木くんの発表について、「身近な自分の悩みに課題を見つけ、課題解決により世の中に貢献しているということが素晴らしい」との講評を頂きました。

2日間に渡る全国専門学科情報科学研究協議会（東京大会）を無事に終えることができたのも、多くの方々からのご支援、ご助言があったからだと思えます。多大なご協力を頂きありがとうございました。

定時制課程 学校行事予定

10月3日（月）進路適性検査、追試・補習
 4日（火）追試・補講
 5日（水）追試・補講
 6日（木）成績会議
 7日（金）前期終業式
 8日（土）・9日（日）週休日
 10日（月）～12日（火）スポーツの日・期間休業
 13日（水）後期授業開始

通信制課程 学校行事予定

10月8日（土）スクーリング2-1
 10日（月）スポーツの日
 15日（土）スクーリング2-2
 22日（土）スクーリング2-3